

ブータン調査の概要

龍谷大学法学部 富野暉一郎

1. 調査機関 9月9日~9月19日 (ブータン国内 9月10日~18日)

2. 調査の目的—GNH政策の基本理念とその課題

(1) ブータンの財政構造とGNH政策の関係

被援助国としてのブータンにおける財政の自立問題

(2) GNH政策の基本的コンポーネントとしての環境政策

GNH政策の基本構造

環境政策と開発政策の関係

(3) 地方行政の構造と実態

地方行政組織

地方行政における財政構造

地方行政における政策決定と事業評価

(4) その他の関心事項

紙すき技術移転の事後調査

地方の実情

ブータンの国家理念

3. 調査の対象地域

(今本秀爾氏の資料から転載)



(1) パロ

ブータン唯一の空港所在地

歴史的にはチベット仏教伝来以来チベットとの抗争の地域

ネパールに続くヒマラヤ山脈に近い

(2) ティンプー

ブータンの首都

最近は人口の増加と観光客の増加のため建築ブームの様相

メインストリートで通勤時間帯は渋滞も発生

(3) プナカ

氷河湖からの水流の合流点で氷河湖決壊の被害を受ける

美しいゾン（地方行政庁）で有名

(4) ワンジュ

中部ブータンと南部を結ぶ要衝の地

大規模水力発電所建設で人口増

ニュータウン建設中

(5) ブムタン

現王朝発祥の地

中部ブータンの文化的中心地

国民のアイデンティティの対象

(6) トンザ

崖上の秀麗なトンサ・ゾンで有名

4. 調査・訪問先

(1) パロ

ブータン王立大学師範大（環境教育プログラム開発ヒアリング）、

国立博物館、キチュ僧院、ドゥゲゾン（城郭要塞）

(2) ティンプー

財務省予算局長ヒアリング、国家環境委員会局長ヒアリング、

内務省地方局長ヒアリング、ブータン王立大学渉外部長ヒアリング、

手すき紙工房視察とヒアリング、

民俗博物館、市場視察、ターキン動物園、祭り

(3) プナカ

プナカゾン地方行政庁視察（選挙登録担当者ヒアリング）

氷河湖水害被害視察、農家訪問、

(4) ワンジュ

ゲオク＝郡長（ヒアリング）
ワンジュポダン・ゾン
祭り、ニュータウン建設現場

(5) ブムタン

地域事情視察、織物工房

(6) トンサ

トンサゾン視察、仏教行事視察

3. 調査結果

(1) ブータンの財政構造とGNH政策の関係

* 国家財政は援助依存型である。

インドおよび日本を含む先進諸国、国際援助機関による援助に依存
財政収入の特徴は（別紙参照）

(i) 国家財政の40%が外国援助

インドが最大の援助国で、大型水力発電所建設、すべての国道整備など

(ii) インドへの売電収入が最大の財政収入、2位が観光収入

* 自立財政への展望は

水力発電は20年借款、発電量の80%を売電、20%を国内向けに供給して
エネルギー自給を保持しつつ20年後の財政バランスを目標としている。

* インドとの関係

インドのイギリス植民地時代はインドによる併合された。

第2次世界大戦後1947年に中国によるチベット併合を機にインドに外交権を
実質譲渡して半独立国となる。（2007年に外交権回復）

→ 国家主権と引き換えにインドの対中国戦略的緩衝地帯として援助を引き出す。

鎖国時代も対インドはビザなしでの交流（現在も継続）

インド人技術者・労働者及びホワイトカラーと観光客の流入

ただし最近はホワイトカラーの影響力は低下して発電所・国道建設関連
労働者が多い

* 中国との関係

歴史的にはチベットの侵略が続く

中国によるチベット併合後は対中国関係断絶（国境地帯中心に兵力1万人保持）

近年関係は徐々に雪解けしつつあるが、国民の対中国警戒感はまだ強い

観光関連での動きは出てきている。

* 南アジア多国間関係の枠組み（SAARC）8カ国

インド・ブータン・パキスタン・アフガニスタン・スリランカ・モルディブ・

ネパール・バングラディッシュ

(2) GNH 政策の基本的コンポーネントとしての環境政策

*GNH の 4 コンポーネント

環境の保護、歴史と伝統の保全、BHN 充足のための持続的開発、グッドガバナンス

*各省庁の上位機関としての「国家環境委員会」

環境省はつくり首相の直属機関としての位置づけ

*国家環境委員会の事務内容

生物多様性、アセスメント、環境報告書、樹木伐採の許可、廃棄物処理、
国立公園管理、天然資源管理、環境教育など

*特徴

仏教の輪廻思想に基づく共生が基底に

すべての開発行為に計画廃止も含むアセスメント制を適用、

樹木伐採規制（1 家族 1 年間に 2 本まで）

森林護民官設置（逮捕権あり）

*課題

都市におけるプラスチック廃棄物の不法投棄問題

氷河湖の決壊による大災害の危険（温暖化の影響も）

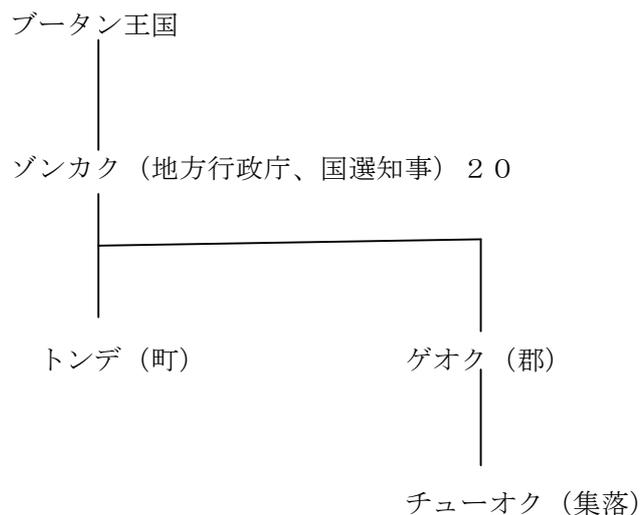
中部・南部における空港建設と道路建設の選択問題

*貴重生物

鳥類の宝庫、ターキン、ゴールデン・ラングール（猿）、虎、

(3) 地方行政の構造と実態

*ブータンの地方組織



*地方分権

第 4 代国王が地方予算の付与と事業の決定権など地方分権を推進した

* 地方選挙改革キャンペーンが進行中

国政選挙に続いて地方選挙改革が進められている

具体的には、①信任投票制度から複数候補制へ、②電子投票制度の導入

③選挙人登録の推進 ④候補者へのテスト導入（ゾンカ語のヒアリング・ライティング・テスト）

選挙権、18歳以上、被選挙権18歳以上65歳以下

* 地方財政制度と予算決定における地域主権

①国家予算の約40%を地方交付税にまわす（公共投資用、公務員はすべて国家公務員）

②国は、5カ年計画に沿ったガイダンスと総額を示すのみ。

③予算の決定方法

チューオクレベルでの住民の寄り合いで、その地域の要求事業をまとめる

→チューオクの代表（ツォッパ）がゲルク（郡）単位で集まって予算の調整

→ゲオク代表がゾンカクに集合して議長を決め、GYT(HGewog Yargay

Tshokuchung=ゲオク代表者会議)でゲオクレベルでの調整を行い決定

この場合、知事は助言のみ（GNHの指標との整合、予算編成方針）

* 地方行政における予算執行の評価

年2回中央政府に予算執行状況に関する報告書を送付

GNH委員会が必要に応じてGAOを派遣して貧困・独居・病人・土地なし住民の支援を行う→GAO報告書を国王に直接提出)

(4) その他のノート

* GNH政策は貧しいから可能なのか

○仏教思想・仏教的価値観の重要性

輪廻思想に基づく共生の生活倫理、人間存在の相対化

足るを知る、過剰な豊かさを苦・業とする思想

→日本人への親近感

○むしろ積極的に改革開放・英語教育・男女平等やDV抑止などの人権思想を推進

それとともに、伝統的建築様式への誘導、制服としてのゴとキラ、複数配偶者の容認などを堅持

○インド・ネパール・チベットなどに対して緩かったカースト制度

●経済的豊かさが人の自由度を広げ幸福感を高める（プロテスタンティズム）

⇔精神的自由度・とらわれない心が人の幸福感を高める（仏教）

* 環境教育とは何か

○6歳からの環境教育の改革プログラムが進行中（師範大学）

教師の意識改革から始める必要性

○核心は“awareness”-自分の周りのものに関心を持ち自分との関係を作ること

基本的には仏教的世界観・環境理解

* 地方自治における討議型民主主義はなぜ成立しているのか

- 包括的予算付与による自己決定責任の自覚の生成
- 農村型社会における共同性・生活空間の共有

* 今後の課題

- 国際社会との接触の拡大による価値観の多様化にどう対応するのか
- 過剰な観光化は抑止可能なのか
- 水力発電一極依存の財政の脆弱性はどうか

(人材育成だけで展望はあるのか、地下資源・自然資源の高度な活用に行くのか)